

「とやまの道」と北陸新幹線の開業

富山県 土木部 道路課

1. 富山県の概要

平成27年3月14日、本県の長年の悲願であった北陸新幹線が開業（長野～金沢間）しました。これに伴い県内では、「富山駅」「新高岡駅」「黒部宇奈月温泉駅」の3駅が開業し、新しい列車、新しい駅、新しいお店などを喜ぶ県民の声が数多く報道されたほか、テレビ番組では沿線の見どころや食べどころも多く報じられました。県では、この機をとらえ、随所にある富山の良さを広く全国の方々に知っていただき、何度も心地よく訪れていただけるよう、様々なおもてなしに取り組んでいます。



〈北陸新幹線の概要〉

区間／東京・大阪間

総延長／約700km

(うち東京・高崎間約105kmは上越新幹線と共用)

速度／最高設計速度260km/h

沿線都道府県／東京都、埼玉県、群馬県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、大阪府の10都府県(沿線人口約4,000万人)



また、北陸新幹線に乗って富山県に入ると、能登半島や立山連峰に囲まれている富山湾を眺めることができます。この富山湾は、平成26年10月に「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しました(※)。加盟のポイントは、標高3,000m級の山々と水深1,000mの海による「高低差4,000m」のダイナミックな地形、特に、海越しの3,000m級の立山連峰を望む地形が、稀有であったことです。

さらに、ブリ、ホタルイカ、白エビなどの海産物を始めとする自然の恵みも豊富です。ぜひ、皆様も北陸新幹線に乗って富山湾を味わってみませんか。

※) 1997年創設。世界遺産のフランス・モンサンミッシェル湾など世界の名立たる湾が加盟。



海越しの立山連峰(高岡市雨晴)



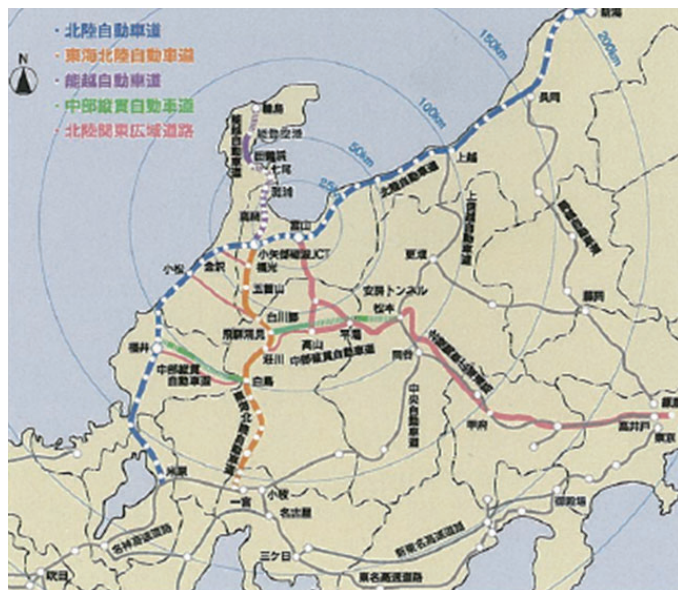
雪の大谷(4月中旬～6月頃)

立山黒部アルペンルートの室堂ターミナル周辺道路に積もった雪を除雪してできる雪の壁。20mの高さになる年もある。

富山県は、明治16年に石川県から分県して誕生し、今年で132年を迎えています。以来、この分県の契機となった治水事業や砂防事業が積極的に進められるとともに、道路や港湾など様々な施設を整えてきました。その結果、現在では全国トップレベルの「住みよい県」という評価をいただいています。

県土は、本州日本海側のほぼ中央部に位置し、東西90km、南北76km、面積は約4,247km²で、国土の約1%を占めており、蝶々が羽を開いたような形で、山々と海に囲まれています。3方の山々は3,000m級が連なる立山連峰と、ここに源を発する黒部川、早月川、常願寺川などの急流河川、その下流には、緑に包まれた扇状地平野、日本海側最大の外洋性湾で海底谷が発達した水深1,000mを超える富山湾に至るまで、高低差4,000mのダイナミックで変化に富んだ地形を有しています。

この県土を縦横につなぐ道路状況は、東西を貫き日本海側を結ぶ北陸自動車道、これに交差し中京圏を結ぶ東海北陸自動車道、さらに能登半島に至る能越自動車道が基軸となり、地域高規格道路や国道8号、41号、156号、160号などの国道、県道、市町村道で構成されており、このうち約18%にあたる2,458kmの道路を県で管理しています。



【平成 26 年度のトピックス】 ～ 新幹線新駅へのアクセス道路の整備 ～

平成 27 年 3 月の北陸新幹線（長野・金沢間）の開業に向け、本県では、新たな駅として、県西部では「新高岡駅」、県東部では「黒部宇奈月温泉駅」が計画されました。（富山駅は現駅に併設）

これら新駅へのアクセス向上を図るため、国、県、市が一体となって道路の整備を進めてきたところであり、県では、県道高岡環状線（整備延長 2.6km）と県道黒部宇奈月線（整備延長 2.4km）のバイパス整備に取り組み、両路線は、平成 26 年 11 月に供用しました。

また、直轄事業では、国道 470 号能越自動車道七尾氷見道路や国道 8 号入善黒部バイパスが新幹線開業に合わせて供用しました。

さらに、北陸自動車道では高岡砺波スマート IC、東海北陸自動車道では南砺スマート IC が供用したほか、バイパスや歩道設置など多くの事業が平成 27 年春の供用を目指して進められました。

これらの整備によって新駅の利便性向上はもとより、広域的な道路ネットワークの強化が図られ、地域の産業・経済の活性化や観光振興、交流人口の拡大などに寄与することが期待されています。

平成 26 年度 主な道路の開通

路線名	区間	延長	供用日
能越自動車道	灘浦 IC ～大泊、七尾城山 IC ～七尾 IC	3,200m, 7,100 m	平成 27 年 2 月 28 日
北陸自動車道 高岡砺波スマート IC	砺波 IC ～小杉 IC 間	—	平成 27 年 3 月 1 日
東海北陸自動車道 南砺スマート IC	福光 IC ～小矢部砺波 JCT 間	—	平成 27 年 3 月 1 日
国道 8 号 入善黒部バイパス	黒部市古御堂～魚津市江口	7,300 m	平成 27 年 3 月 1 日
国道 415 号 谷屋大野バイパス	氷見市谷屋区間	1,100 m	平成 26 年 11 月 1 日
国道 471 号 栃折バイパス	富山市八尾町栃折区間	1,466 m	平成 26 年 11 月 7 日
県道高岡環状線	高岡市佐野～六家	2,600 m	平成 26 年 11 月 14 日
県道高岡環状線	高岡市蓮花寺～下伏間江	1,300 m	平成 26 年 10 月 29 日
県道黒部宇奈月線	黒部市荻生～若栗	2,400 m	平成 26 年 11 月 26 日
県道小杉婦中線	射水市手崎～黒河	720 m	平成 27 年 3 月 23 日
県道入善朝日線	入善町古黒部～朝日町草野	700 m	平成 27 年 3 月 25 日



県道高岡環状線（開通式）



県道黒部宇奈月線（左中央が新駅）

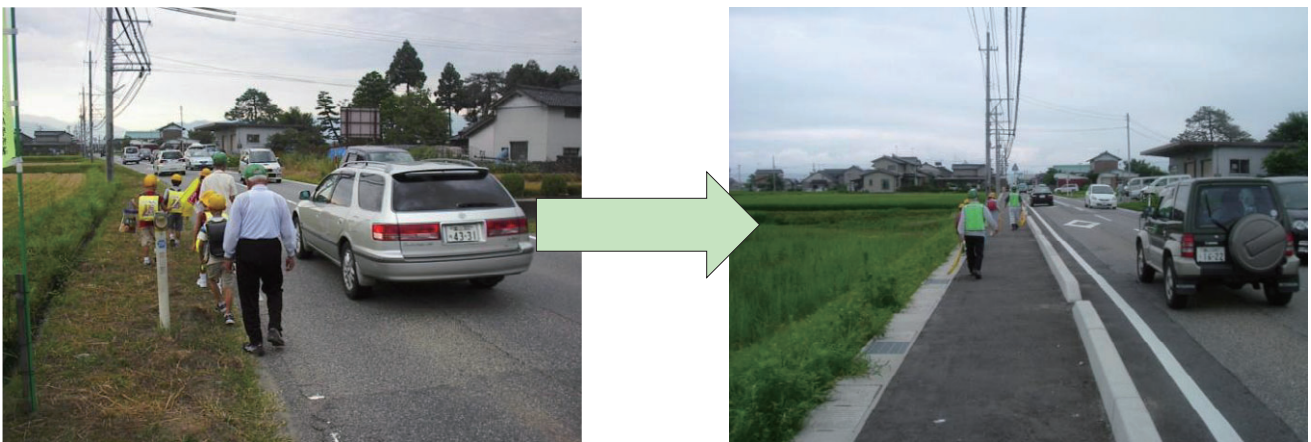
2. 道路ストックの有効活用

(1) とやまのみちフレッシュアップ事業の推進

本県独自のこの事業は、道路を利用する人たちの意見を聞きながら、今ある道路に「ひと工夫」加えることで、「とやまのみち」をより安全、便利で快適にすることを目指しています。

この事業のポイントは、大規模な道路改良工事やバイパス工事など計画的に進める道路整備とは異なり、一番「みち」の身近にいる道路利用者の視点で道路整備を行うことです。そのため、多額の費用をかけずに、できるだけ早く効果が出せるよう“既存道路敷地内”における対策実施、“新しいアイデア”の積極的な活用など、道路利用者の意見がすぐに整備に活かせるよう工夫しています。

具体的には、歩道のバリアフリー（フラット）化、側溝の蓋がけ及び電柱・標識の移設による歩行者空間の確保、法面立上げによる歩道の新設、幅員構成の見直しによる右折レーンの設置などを行っています。



<法面立上げによる歩道の新設事例>

(2) 新幹線開業に向けた道路案内標識の整備

国土交通省富山河川国道事務所と富山県では、平成27年3月の北陸新幹線開業にあたり、新幹線駅へスムーズにアクセスできるように、駅周辺の道路案内標識を更新・新設しました。整備にあたっては、道路利用者に新幹線駅の方角をよりわかりやすくすることを目指し、北陸ブロック道路標識適正化委員会富山県部会において、国・県・市共通の北陸新幹線の新型車両 E7、W7 系をイメージしたピクトグラムを策定、設置しました。



新型車両をイメージしたピクトグラム



新しい標識板のレイアウト例



(3) 富山湾岸サイクリングコースの整備

平成 26 年 10 月に富山湾が国内では松島湾に次いで「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した効果や平成 27 年 3 月に北陸新幹線が開業した効果を最大限に活かして、国内外の観光誘客や地域活性化を目指しています。

この一環として、富山湾の美しい景色を楽しみながらサイクリングを行えるよう、既存の県道や市町道などを活用した「富山湾岸サイクリングコース」を設定しました。コースは海岸沿いの眺望のよい道路や観光施設を結ぶルートとして設定し、走行時の目印となるナビゲーターラインなどわかりやすいコースとなるよう以下の整備を行いました。

整備概要 延長約 88km

(富山県氷見市～朝日町)

- ・ナビゲーターライン整備延長 約 88km
- ・分岐点誘導標識 25 箇所
- ・距離標 44 箇所
- ・全体コース案内看板 6 箇所

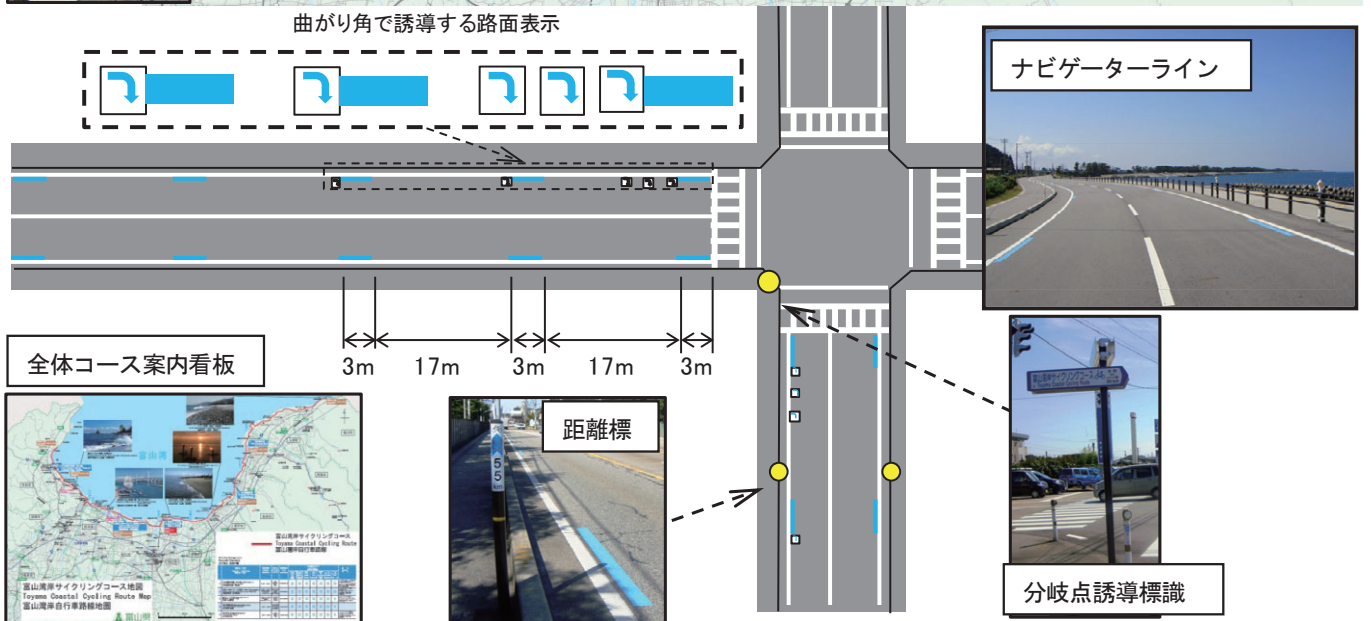
～世界で最も美しい湾クラブ～

ユネスコが後援する NGO

世界遺産のフランス・モンサンミッシェル湾など世界の名だたる 38 箇所の湾が加盟し、湾を活用した観光振興と資源の保全を目的に活動している。



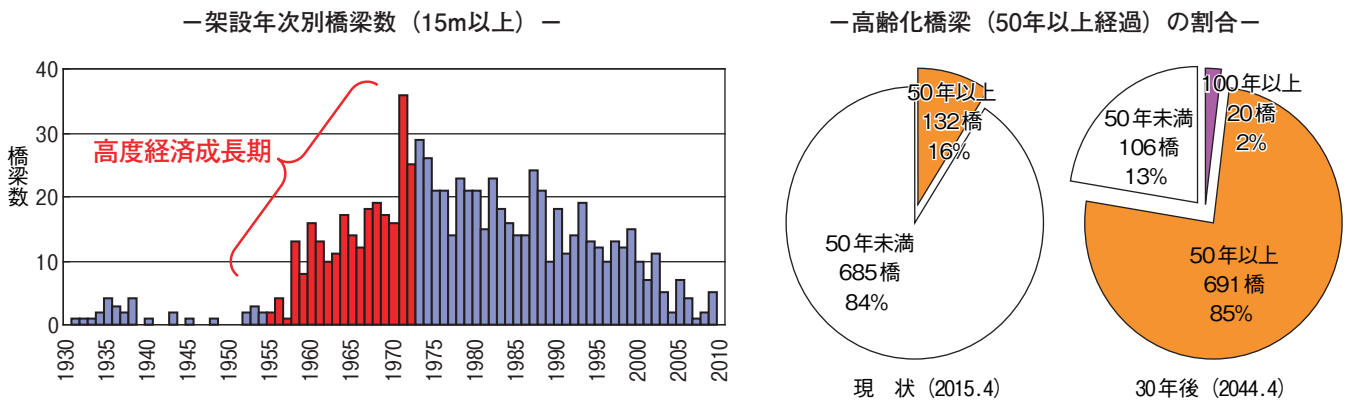
曲がり角で誘導する路面表示



3. 道路施設の維持管理と積雪への備え

(1) 橋梁の計画的な維持管理の推進

平成 27 年 4 月現在、富山県が管理する橋長 15m 以上の道路橋は 817 橋あり、このうち建設後 50 年を経過する橋梁は 132 橋で全体の約 16% を占めています。これが 20 年後には約 65%、さらに 30 年後には約 85% になり、劣化した橋梁が急増することになります。



このため、橋梁長寿命化修繕計画 (H23.2 策定、H27 見直し予定) に基づき、計画的な維持管理を推進しています。また、老朽化が進み、長寿命化を図ることが困難な橋梁については、橋梁の架け替えを進めてきており、今後とも、ライフサイクルコスト等を勘案のうえ、計画的な架け替えを実施していくこととしています。

また、大規模地震に等において橋梁が落橋、倒壊等の大きな損傷を受けないよう、橋桁の落橋防止や橋脚の補強などの橋梁の耐震化に取り組んでいます。(富山県地域防災計画に位置づけられた緊急通行確保路線にある耐震対策が必要な橋梁 117 橋は、平成 24 年度までに対策を完了。)

(2) 道路愛護ボランティアの支援

県管理道路において、歩道、路肩、植樹帯などの清掃、草むしり、水やり等のボランティア活動を継続的・積極的に行う団体を支援する制度を設け、道路沿線の美化推進を図るとともに、地域社会の一層の活性化を目指すことを目的としています。

このようなボランティア団体を「道路愛護ボランティア」として登録して支援しており、現在、94 団体 約 4000 人が登録・支援しています。



(3) 道路メンテナンス会議の設立と取り組み

平成 26 年 5 月に、「富山県道路メンテナンス会議」を設立し、技術力向上に向けたトンネル点検の実地研修を開催するとともに、市町村の点検業務を対象とした県による代行発注を検討するなど、各道路管理者が連携して老朽化対策に取り組んできています。

また、県独自の取り組みとして、県内市町村にも利用いただけるよう①道路橋点検要領の策定、②点検結果などをデータベース化するシステムの構築など、継続的にメンテナンスが図られるよう環境を整えています。

(4) 冬期間の積雪に備えるために

富山県では、道路の除雪業務を全面的に建設企業等へ委託していますが、これまでの建設業をとりまく環境が厳しくなる中、このままでは近い将来、除雪体制に支障が生じる恐れがあることから、安定的な除雪体制の維持を図るため様々な取り組みを進めています。

特に除雪オペレータの高齢化への対応、モチベーションの向上を図る取り組みを行っています。

ア) 除雪オペレータの実地研修

H22	富山地区	受講者 13 名	講師 3 名
	高岡地区	受講者 23 名	講師 3 名
	砺波地区	受講者 28 名	講師 4 名
		64 名	10 名
H23	富山地区	受講者 11 名	講師 3 名
	新川地区	受講者 14 名	講師 3 名
	砺波地区	受講者 12 名	講師 3 名
		37 名	9 名
H24	新川地区	受講者 12 名	講師 2 名
	砺波地区	受講者 8 名	講師 3 名
		20 名	5 名
H25	富山地区	受講者 3 名	講師 1 名
	砺波地区	受講者 13 名	講師 6 名
		16 名	7 名
H26	富山地区	受講者 7 名	講師 2 名
	砺波地区	受講者 20 名	講師 8 名
		27 名	10 名

除雪オペレータ実地研修実績

後継者の育成と技術向上を図るため、平成 22 年度から若手オペレータが熟練オペレータと除雪機械に同乗し、直接技術指導を受けることとしています。



除雪オペレータ実地研修の様子

イ) 道路除雪功労者表彰

平成 21 年度から、除雪従事者を激励し除雪水準の向上につながることを目的に、各土木センター・事務所において、特に顕著な功績があった方々に所長賞の表彰をしています。

平成 24 年度から、とりわけ永年にわたり道路除雪に従事され県行政の推進に多大な貢献をした道路除雪功労者に知事感謝状を贈呈しています。

平成 26 年度からは、これに加え、若い従事者に、これからも永続的に除雪に従事してもらうために表彰する「ジュニアマスター部門」を創設し、安定的な除雪体制の維持に努めています。

(5) 結びに

多様化するニーズへの対応や道路施設の老朽化対策など道路に求められるニーズに適切に応えるとともに、北陸新幹線開業という絶好の機会を活かす様々な施策を進めています。多くの皆様が北陸新幹線等に乗って富山を訪れ、心地よく過ごしていただけるよう切に願っています。